

制作・問い合わせ先

埼玉県高校図書館
フェスティバル実行委員会
HP <http://shelf2011.net>
Twitter: @shelf_20110219

制作協力

社会福祉法人 埼玉福祉会
TEL 048-481-2188 FAX 048-481-0752
ホームページ
<http://www.saifuku.com/>
Eメール shohin@saifuku.com

埼玉県の高校図書館司書が選んだ
イチョシ本2014

1位 藤つなげ！彼らが本の扉を壊している
再生・日本製紙石井工機 佐々原子／早川書房

2位 明日の子供たち
有川浩／幻冬舎

3位 本屋さんのアツク
榎本麻子／新潮社

4位 鹿の王(L.T.)
上橋菜穂子／KADOKAWA

5位 わたしはアラブ
読者のために立ち上がり、みんなに愛された少女
アキラ・エズリヤ／早川書房

6位 ハマナツメ！
辻村深月／マガジンハウス

6位 何てしてよ
おかへんか！ 文やまてんか！ 写真／東京書籍

8位 橋津出立
万城目学／新潮社

9位 八月の六日
北村薫／KADOKAWA

10位 ぼくのニセモノ
アキラ・エズリヤ／マガジンハウス

詳しい説明は内面の面を裏ごしください。

埼玉県の
高校図書館
司書が選んだ
イチョシ本
2014年版

★ 2015年2月発表！ ★

Take Free

★イチョシ本に決まりました★

埼玉県の高校図書館司書が選んだイチョシ本2014は、2013年11月～2014年10月に発行された本の中で埼玉の高校司書105名が高校生にすすめていたと思った本を投票し、決定しました。

埼玉県の高校司書は専任・専門・正規の形で学校図書館に配置され、高校生に魅力的な本を紹介するために、日々、図書館活動を行っています。

そんな学校司書の仕事を県民の皆様にご紹介するために、今年5月5日に今年もハンズオンブックに著者や編集者の方から紹介のコメントを寄せさせていただきました。

この場を借りて御礼申し上げます。

★★★★★まだまだあります！イチョシ本★★★★★
借しなくてもベスト10には入りませんが、司書イチョシの本たちです。

ブラネットウォール：惑星着陸(マイケル・ベンソン／新潮社)
◆太陽系惑星の姿を雄大かつ鮮明にとらえている写真集にきつと感動するはず。
◆本物の火星の写真に感動しました。撮影機材のタイマンなんかが写っていて、すごいリアル。いや、実際にリアルなんですけど。◆これは本当に素晴らしい。目の前に、宇宙の光景が広がって見えるような写真集です。でも、高いし、重いし、でかい。(7560円です。)近所の図書館で読ましましょう。そして、また読みたいと思ったら図書館に行けりゃいいのです。その価値はあります。絶対に。
虚ろな十字架(東野圭吾／光文社)◆娘が殺されたことで、夫婦を維持できなくなった二人は離婚した。その後数年、元妻が殺された。遺族になることはなかったが、元夫は事件の真相が知りたくて、調べ始める……。
麗神(宮部みゆき／朝日新聞出版)
◆時代小説だけれど、とても読みやすい。さすがです。
トモリとともきんず(高野文子／中央公論新社)
◆「とも子さん」と「きんちゃん」が母子で営む学生寮に、若かりし日の科学者たちが下宿していたら……？日本を代表する科学者4人とその著作を紹介する漫画。短くやさしい1冊だけれど、選び抜かれた絵と洗練された絵のおかげで、科学の「心」に触れられた感じがして感動しました。
春.戻る(瀬尾まこと／集英社)◆新しい環境に飛び出す前に、読んでおきたい本です。いつでもやり直しはできるし、過去に戻ることも先に進むエネルギーに変えることができるということがわかります。
満願(米澤穂信／新潮社)◆ぞつとする怖さがあります。◆ぞくぞくしながら夢中で読解しました。◆短編6編と読み応えがあった。伏線の効果が絶大。
アイネクライネナハトムジーク(伊坂幸太郎／幻冬舎)
◆人との出会いなんでもどこに転がっているかわからないし、小さな奇跡の繰り返し。ユーモアに溢れていて、ところどころコケツと、読むとほっこります。
ぼくの守る星(神田茜／集英社)◆ディレクターの少年が真剣にしゃべると笑いを呼んでしまうけど、本当に守りたいものがあるんです。
願いながら、祈りながら(乾ルカ／徳間書店)◆生徒数たった5人の北の大地の中学校分校での学園物語。もどかしいような青春前期を思い出す……。
信じられない!現実の大図鑑(ボーリング・キングスリー／東京書籍)
◆思わず「信じられない……」とつぶやいてしまっ一冊です。
本題：西尾維新対談集(西尾維新／講談社)
◆素直に受け止めてほしい名言多数!「ああ、自分に〇〇の才能があったらなあ……」と思いがちな人へ、この本をイチョシします。
《役割語》小辞典(金水敏／研究社)◆セリフを読むと、その言葉発した人物が浮かび上がってくる。「わたし」「ボク」「オレ」「おら」「わらわ」……そんな言葉を集めた本です。演劇部の顧問の先生が、役作りに役立つかもと言っていました。
おかんメール(おかんメール制作委員会／扶桑社)
◆こんなたいげな世のおかあさん高校生に諸君、勇気をつけてあげよう!
家族シアター(辻村深月／講談社)
◆家族という存在の大切さや温かさに気付くことができる短編集。
教師師(堀川恵子／講談社)
◆著者堀川恵子さんの丹念な取材に頭が下がる。『死刑の基準—永山判決が遺した』も読め。◆死刑とは何なのか、深く考えさせられる本でした。
名人(梅佳代／節山社)
◆初のエッセイ付き写真集。エッセイというより遠足の作文っぽい。進路コーナーに置いてもいいかも。◆素材で自然体、個性豊かな名人たちに出会える本。
いちご戦争(今日マチ子／河出書房新社)◆ひびきの衝撃。これは「反戦」なのか?◆戦争で大切な人が死ぬことなんだよ。
ぼくたちはなぜ、学校へ行くのか。(マララ・ユスザイ／ポプラ社)
◆一人の子ども、一人の教師、1冊の本、1本のペン、それが世界を変える……マララさんは国連でそう演説しました。今の世界には、貧困や差別や無学などで苦しんでいる子どもがたくさんいる。教育によってとばをもち、そのことばによって自分たちの気持ちを表現することで、世界を変え、明るく豊かな未来が築けるのだと。いろいろな友だちと遊び、学び、話し合い、考えあうことで自分のことばを獲得してゆく。学校はそのための場所なのでないか?との本には書かれています。高校生の皆さんにも、よくかみしめて読んでほしい本です。
憲法主義：条文には書かれていない本質(内山崇月、南野森／PHP 研究所)
◆守っていききたい日本の宝物、「憲法」。
伝説のエントーくん(まほら三條／小学館)
◆伝説の人が実在したとは！語り手は中学校の教員たち。その学校で伝説のヒーローとして代々語りつづられる「エントーくん」が、なぜ伝説になったのか?その秘密が、解き明かされる時おもしろい!感動の音が漏れてしまいました。
理系アサ(阿茶一)の生物部な毎日(阿茶一／岩波書店)◆生き物への愛がイラストにもあふれていて、読んでいて楽しく前向きになれる本です。
デイズ—の英語コレクション 5 アナと雪の女王(石原真弓／KADOKAWA)
◆今年の流行語にもなるほど話題になった映画で英語の勉強ができます。このシリーズには他に、ぐまのアーサー・TOY STORY・美女と野獣などもあります。知っている物語で楽しく英語を学びましょう。
ハムケツ：どうしてそんなにカワイイの?(manic／バジリコ)◆とにかく、おもしろい可愛い。

NHK 考えるカラス：「もしかして?」からはじまる楽しい科学の考え方(NHK 出版)

◆科学の苦手な私でも読めました。
NEW TEXT(小野啓／赤々舎)
◆「今」と「10年後」に見てほしい写真集です。
かぐれん部：「見えないけどいる」いきものたち(かぐれん部探検隊/アスペクト)
◆写真がキレイ!必死で隠れている生き物たちがカワイイ!私たちもこのくらい生態学生きなさい。
さよなら神様(麻耶雄嵩／文藝春秋)◆いわゆる殺人事件の起こるミステリなのですが、神様と小学生の対決の話でもあるのが面白。重たくも軽くもとれる結末も良い。ひと味違ったミステリを読む人におすすみます。
シロガラス 1 パワー・ストーン(佐藤多佳子／偕成社)
◆まだ話がまったばかりだが、引き込まれる。
それは甘くないかなあ、森くん。(小野寺史宜／ポプラ社)
◆就職して甘くない。絶体絶命の森くんにはほらほらします。
タモリ読本：語っていいと悪い(いとうせいこう／洋泉社)
◆(笑っていいとも!)が先日最終回になった。その司会者を長年務めたタモリは、もはや国民的人気者。誰もが知っているよ。じゃあ、そのサクセスストーリーをどこまで知ってますか。この本、過去のタモリとともに仕事をした人々に取材、タモリの素顔を記録したものだ。いやー、芸能界って実は深蔵い世界なんだわ……。
はじめての短歌(穂村弘／成美堂出版)
◆短歌について学んでいるうちに、なぜ現代が生きていくのかわかってくる。プラトニック・プラネット(雪舟ま／KADOKAWA)◆不思議なんだけど、しっくりくる世界観。この人のネーミングセンスは、いつもたいへん素晴らしい。
ほんとうの花を見せよ(桜庭一樹／文藝春秋)◆軽い文体ですが、胸がきゅんと締め付けられます。大人になると、生きるということを考えさせられます。
嫌われる勇氣(岸見一郎、古賀史穂／ダイヤモンド)
◆高校生にときに読みたかった。
源氏物語 薬の結び 3(佐原規子／理論社)
◆高校生でも読みやすい源氏物語の現代語訳。この巻で完結。
自発的線維論(エチエンヌ・ド・トラ・ボエシ／致祥書房)
◆17歳の青年が書いた本です。
フォト・ドキュメンタリー人間の尊厳：いま、この世界の片隅で(林典子／岩波書店)
◆世界の片隅で、困難な中で生きる人たち……。知っていただければならないことがある。
藤原の恋(星野源／マガジンハウス)◆中高生にも人気のミュージシャン・星野源が雑誌「GINZA」で連載していたエッセイの単行本。前半は、彼のオタク気質が垣間見えるほのぼのとした雰囲気だが、後半はくもく下血発症後の文体は、いつ死んでもわからない恐怖の中に、彼自身の持つ独特のユーモアが溶け合って、泣きながら笑えるものになっている。「いつ死んでもいい」と思いつながら生きてきた彼の考え方が、闇を経て変わっていくさまが感じ取れるのもいい。
天益(王城夕紀／中央公論新社)◆「天益」といふ盤勝の勝者が政権を握る国の様々な立場の人が天益に臨み、敗れている。敗者の事情のみこみながら自分の勝ちをひたすら目指す主人公の試合の熱さと、それを嘲うかのように外では冷徹に戦が進む。結局主人公の住む国は負けてしまう。人ひとりの生と国同士の戦いの在り様がバラバラのよう絡み合っていた、歴史の出来事でもおもしろかった。
誕生したらスライムだった件 1(伏瀬／マイクマガジン社)
◆スライムなのに……強すぎ。
燃く生きる(天野篤／セブン&アイ出版)
◆天野医師の使命感に圧倒された(全て共感できる訳ではないが)。
不完全な魔法使い 上・下(マーガレット・マラー／東京創元社)
◆題名と表紙の絵に惹かれて読んだのですが、物語の魔力に引き込まれました。保育士は保育会系(河原佑よつ／サンマーク出版)◆なりたてになったわけではない新米保育士の3年間を保育士経験者が描いたコミックエッセイ。コラムはどれも参考になります。保育士不足というのに、保育士の地位は……。保育士の資格取得には、さまざまな技術や何回もの実習など厳しい勉強が必要なのですが……。
3年7組食物調理科(須藤晴貴／講談社)
◆将来の目標(調理師)に向かって、目の前の目標(調理)に真剣に取り組む高校生たち。失敗しても自分たちで考え話し合って解決策を見つけ、成長していくその姿を応援したくなります。また、アン、著者モンゴウ、NHK朝の連続ドラマ「花子とアン」のヒロイン村岡花子。そして自分をも比べて読んでみるのも面白いと思います。
Only Sense Online 1(アロハ座長／KADOKAWA)
◆こんなゲームがやってみたい。
神様の御用金(浅葉なつ／KADOKAWA)◆生徒に人気があります。

ここで紹介しきれなかったイチョシ本とランキングの詳細は埼玉県高校図書館フェスティバルのHPに掲載しています。
<http://shelf2011.net/>